

# 刻む会

## たよりの



NO.

6

92・10・1

長生炭鉱の水非常を

歴史に刻む会

(代表 山口 武信)

宇部市鍋倉町2-2(澄田方)

☎0836-21-8238

△7後の「展望」に

ついて

山口 武信

八月に金永鉦さんと金東岩のお二方のご遺族を韓国からお迎えしました。皆さんには大変お骨折りをいただき、諸行事を終わり八月二一日には無事韓国におかえりいただきました。

今回のお二方の来字により、改めて色々の問題が浮き彫りにされましたが、基本的には、今まで会が進めてきた方針をそのまま進めて行くことが大切なことを再確認することになりました。

ところで、今回の来字により来年一九九三年の追悼集会に今回おいでいただけなかった方々で、準

備さえできれば参加したいと思っておられる方々がたくさんおありのようです。また、当地の事情について承知いただいている今回のお二方と洪惟淳さんにも是非参加していただきたいと思っております。そのため募金も差し当たり必要になります。

次に碑の件ですが、西日本国際交流推進協会の野村さんの動きも色々と情報が聞かれるようですが、会としては既定方針通り現地場所を求めて、日本人としての謝罪文と死者全員の本名によるお名前を碑に刻むことに、今後は今までの以上の努力をしなければなりません。そのためには、長生炭鉱の水非常のことにつき宇部市内はもちろんのこと、広く日本全体に情報を発信して行く必要があります。

す。

また、証言を求める件についても、先般来字されたお二方が近い内に韓国で遺族会を開催される予定になっています。その中から洪惟淳さんや、金東岩さんのお母さんのような証言をしていただける方を選んでおいていただき、会からも直接渡韓して聞き取りをしなければ、それも早くしなければならぬと痛感しています。

更に、日本人遺族からの証言も必要と思えます。そのための対応もして行きたいと思えます。

以上、これから会としてやっていかなければならないことは大変多く困難ですが、会の皆さんの努力を結集して目的を達成して行きまして行きたいと思えます。

# 韓国人遺族参列し追悼式

五十年前の水没事故で、韓国・朝鮮人百三十三人を含む百八十三人の犠牲者が今なお海底に眠り、日本統治下の悲劇の象徴とされる宇部市西岐波区長生の長生炭鉱跡地で十八日、韓国から「父親の終えんの地を見た」とやって来た二人と京都市在住者の計三人の韓国人遺族による追悼式があった。

## 花束ささげ涙新た

### 祈りの場や遺骨収集訴え

三人は、この事故を「強 没事故」を歴史に刻む会（山口武信代表）に招かれて謝罪運動を進めている「長生炭鉱の水非常」（水 金永鉉キム・ミンヒュン）



父親が今なお眠る沖合に向かって祈る左から金永鉉さん、金東岩さんと李さん

果物などをささげた。この後、近くの寺で父親の日本名の位はいを見て涙を新たにしていた。

席上、現地の状態について「あまりにも殺風景で、祈りの杯をささげる場所も腰を掛ける施設もない。これが、人命を尊重する法治国家の礼儀かと憤り、「何もしてくれなかった経営者の代わりに、水没事故のあった昭和十七年二月三日の命日に遺族全員が集まれる施設を日本政府が造り、遺骨を収集してほしい」と訴えていた。

三人は、この事故を「強 没事故」を歴史に刻む会（山口武信代表）に招かれて謝罪運動を進めている「長生炭鉱の水非常」（水 金永鉉キム・ミンヒュン）に、昨年十二月に現地を訪れた後、遺族捜しを手伝っている京都市の無職李元宰（イー・ウォンジェ）さん（左）。

二人は、刻む会の山口代表、澄田亀三郎事務局長、李さんらとともに十九日は県庁と宇部市役所を訪問、二十日は当時の炭鉱経営者の孫に会見を求めた後、同会の歓迎交流会に臨み、二十一日、下関から高速船で帰国の予定。

# 追悼…韓国の遺族2人

## 寂しい現地に

## がく然



192.8

# 謝罪碑建立を切望

## 長生炭鉱の 帰国前に市訪問 韓国人遺族

韓国から日本を訪れている旧長生炭鉱の水没事故の遺族二人は十九日、市役所を表敬訪問し、慰霊碑の建て替へとピーヤ(空気が)の永久保存を要望した。

訪問したのは遺族会(五十人)代表、金永鉉さん(五三全羅南道霊城郡、公務員)と金東岩さん(五二大邱市、会社役員)、長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻

む会の山口武信代表ら。黒田美智治市福祉部次長が応対した。金さんらは「遺族代表として、みなさんの親切に感謝している。帰国してあり

# 韓国遺族と 市民が交流

宇部・長生炭鉱水没事故で

昭和十七年二月、百三十名の朝鮮人鉱夫ら百八十三人(生命を奪った、宇部市西岐の海底炭鉱・長生炭鉱の水没事故の記録と、犠牲者の名

のままを報告したい」と謝意を表すと同時に「来年二月の命日にはより多くの遺族が来日する予定。それまでに謝罪碑が刻む会の計画通り完成することを願う」と述べた。

西岐波の同炭鉱跡には昭和五十七年、地元のコミュニティー推進協議会が建立した殉難者の碑があるが、金さんらは「謝罪文も犠牲者(百八十三人)の名前も

前を刻んだ追悼碑の建立などを目標として運動している市民団体「長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会」(代表・山口武信宇部女子高教諭)が韓国から招いた遺族二人と市民との交流会が二十日夜、宇部市内であった。

遺族会の会長で、事故でおじをしくした金永鉉さん(五三)は「一國に帰ったら遺族会を開いて、現場の現況などを報告する。来年二月の追悼式には多くの遺族で訪ねたい」と話した。一家の大黒柱を失った家族がどんなに大変だったか、と参加者から聞かれた金東岩さん(五二)は「四歳で父を



謝罪碑の建設を要望する金永鉉さんら

# 遺族招へいカンパの内訳

92年9月16日現在 (合計 829,611円)

吉武 敬子	5,000	花田 実	1,000	神谷 円路(2)	15,000
飛田 雄一	1,000	鄭 美蓮	5,000	西村 信代	9,000
和田 方義	5,000	松岡 竝之佑	5,000	石井 丸夫	4,000
江口 広子	3,000	江本 雅義	1,000	藤井 和義	2,000
田中 晶子	2,000	島 幸子	1,000	重枝 喬	1,000
桂 元昭	5,000	中村 みさお	3,000	額 纈 厚	1,000
井上 洋子	1,000	桧垣 毅	5,000	金 斗元	1,000
沈 成徳(2)	11,000	石飛 宏	1,000	麻田 茂樹	2,000
福田 フジ子	1,000	塚 基秀	2,000	黒川 一男	1,000
弥永 学	2,000	柳井 さとみ	5,000	中川 信明	2,000
青木 ハル子	5,000	山西 素子	1,000	大西 末子	3,000
三浦 信夫	1,000	多賀 静江	1,000	浅山 優子	5,000
村上千代乃	1,000	有川 宏	1,000	橋場 五枝(2)	5,000
池田 久子	1,000	武永 佳子	1,000	高木 和利	5,000
尾厚 邦彦	10,000	伊藤 広子	3,000	木村 文雄順子	2,000
曾根原 穹	2,000	曾根原 友子	2,000	浦部 頼子	3,000
山口 武信(2)	60,000	古賀 フミ子	2,000	奥野 京子	1,000
木村 道江	1,000	藤井 邦夫	3,000	藤井 舒夫	50,000
佐々木 明美	50,000	澄田 龜三郎	50,000	島 敬史	50,000
広岡 優子	2,000	田中 美祢子	2,000	岡田 雅宏	1,000
呉 周烈	10,000	松山 美代子	20,000	小川 博子	10,000
李 元宰	50,000	中光 弘治	10,000	中對 とし子	1,000
西見 静子	2,000	岡崎 海巖	2,000	有吉 昇一	5,000
匿名	100,000	匿名	30,000	【個人小計】	667,000

- ・小串集会 5,000
- ・婦人矯風会 10,000
- ・防府教会婦人会 10,000
- ・小野田教会10名 10,000
- ・宇部教会 10,000
- ・社会党山口県本部 10,000
- ・朝鮮総連宇部・小野田 5,000
- ・下関西教会 2,000
- ・大島教会 5,000
- ・福山延広教会 21,000
- ・民団山口県本部 20,000
- ・街頭募金 11,637
- ・匿名 30,000
- ・8/20歓迎交流集会カンパ 12,974
- 【団体他小計】 162,611

《長生炭鉱水非常の遺族を招へいするカンパ会計報告(1) 92・9・16》

## 【収入】

個人カンパ (71口)	667,000
団体カンパ (12口)	138,000
街頭及び席上カンパ	24,611
カンパ小計	829,611

8/18話合いの会 32,000

会費(16人)

合計 861,611

## 【支出】

遺族招へい旅費	150,000
遺族宿泊費(駐輪センター)	62,767
遺族を迎えての食費 (夕食3、昼食3、朝食1)	64,316
遺族出発国手数料	1,200
集会会場費	7,951
事務通信費	22,050
雑費	11,189
8/18話合いの会夕食代	32,390
遺族への記念品	9,332
合計	361,195

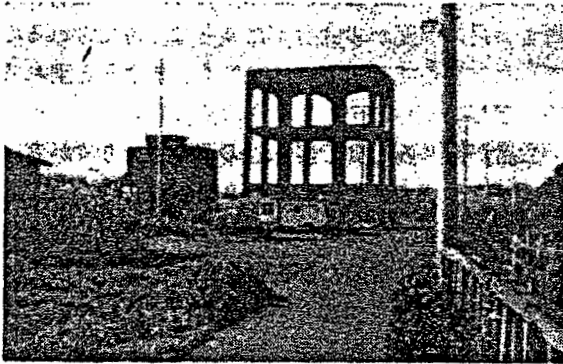
☆現在残高 500,416円

## 西岐波昔話シリーズ(2)

出炭量第3位  
鉱職員800名を擁した  
長生炭鉱の思い出

井上正人さん

ビヤが二つ、ポツンと海に立っている。今日も静かな海である。…浜えんどうの咲き乱れた四十数年前の浜辺… 沖のビヤは夜も昼も休みなく水をはき出していた。昭和12年7月7日蘆溝橋に端を発した、支那事変、そして大東亜戦争と、石炭産業は一躍時代の流れに副って活気を呈した。当時の長生炭鉱も東見初、沖の山に次ぐ出炭量を誇り、800名の鉱職員を擁し、昭和14年には50馬力の捲揚機が150HPとなり、坑内には電車を走らす企画で、電車坑道が着々と掘進されていた。又捲揚機(現在基礎が残っている)の裏側に長生停留所があり人の乗降も多かった。にしきわ音頭の踊りをふり付けされた石井好美先生の厳父は管木鉱務部長で、石井好美先生の師、石井漢が洋舞を市民館で催したが、それは盛会なものだった。又当時労務課長だった柴田喜代



写真は、はなやかりしころの長生炭鉱跡

太さんが、双葉山一行の勸進元を務め、新川の山銀裏で興行を打った時も大変なものだった。炭住の中央に道路が走り、その道路の両側に毎日市が立ち活気を呈していた。昭和17年(大東亜戦争の翌年)

2月3日朝。沖のビヤの水はピタリと止った。捲揚機の騒音が聞こえなくなった。183名の産業戦士は今でも静かに海底に眠っている。……合掌

◎ビヤのことを炭鉱用語でビヤと呼んでいた。

ビヤは空気を入れる筒と空気を排出する筒であり、二つ今でも長生沖に立っている。又ビヤは海底の水を吸い出すパイプが張り巡らされていた。